

現況分析における顕著な変化に  
ついての説明書

研 究

平成22年6月

旭川医科大学



# 目 次

1. 医学部・医学系研究科	1
---------------	---



## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 旭川医科大学

学部・研究科等名 医学部・医学系研究科

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目「I 研究活動の状況」

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

#### ○顕著な変化のあった観点名

「研究活動の実施状況」

(学長裁量経費による研究助成) 戦略的資源配分の一環として、学長裁量経費から、大型競争的資金や科学研究費補助金など外部資金の獲得につなげる「独創性のある生命科学研究」に研究資金を助成した。また、平成 21 年度は、学内の多彩な研究分野の融合を促進するため、助成対象として新たにプロジェクト型研究を設けるとともに、助成金額を大幅に引き上げた(資料 1-1-1)。

資料 1-1-1 学長裁量経費による研究助成

(単位: 件・千円)

平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度				
個別研究		個別研究		個別研究		プロジェクト型研究		計
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
20	10,000	20	15,000	32	30,000	2	13,000	43,000

(脳機能医工学研究センターの設置) 高齢社会となった我が国において、社会的要請が極めて高い運動機能障害及び高次脳機能障害を克服するため、基礎神経医学、臨床神経医学、医工学及び神経リハビリテーションの複合領域研究により機能再建医療の確立を目指す研究・教育拠点として、平成 22 年 3 月に「脳機能医工学研究センター」を設置した。

(知的財産基盤の確立) 平成 20 年度に、(独)工業所有権情報・研修館の「大学知的財産アドバイザー派遣事業」により専門家を客員教授として登用するとともに、知的財産マネージャーを配置して知的財産基盤を確立し、特許の取得につなげた(資料 1-1-2)。また、研究シーズ発掘及び知的財産に関する啓発活動として研究室訪問を実施したほか、(独)科学技術振興機構(JST)の「重点地域研究開発推進プログラム(シーズ発掘試験)」に採択された 7 件の研究開発を進めた(資料 1-1-3)。

知的財産に関する取組の強化並びに役職員の職務発明と知的財産権化を奨励するため、平成 21 年 7 月に知的財産ポリシーを策定するとともに、職務発明等に対する補償金に係る規程を制定した。

資料 1-1-2 特許の出願・取得状況 (単位: 件)

区分	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	出願	取得	出願	取得	出願	取得
国際	2	0	5	0	1	0
国内	6	0	2	1	8	1
計	8	0	7	1	9	1

資料 1-1-3 シーズ発掘試験に採択された研究開発

①糖尿病網膜症における炎症性サイトカインの網膜循環への影響と新規治療法開発、②低酸素応答性転写因子を標的とする新規糖尿病性腎症治療法の開発、③内皮前駆細胞抑制剤 drug delivery system の開発、④薬物の血中濃度調節に関わるトランスポーター遺伝子変異解析技術の開発、⑤バレット食道における異常遺伝子の正常化に基づく新規食道癌予防法の開発、⑥血管平滑筋弛緩作用物質の簡易スクリーニング法の開発、⑦一塩基多型特異的な増幅反応に基づく ABO 式血液型判定法の開発

(判断理由) 以上、これまでの研究活動を維持しつつ、複合領域研究の推進や知的財産の創出を目指した積極的な取組は、関係者の期待を大きく上回ると判断する。